

第2回 「野川ルールを考よう」 議事要旨

開催日時：平成 19 年 7 月 15 日 10 時～12 時

開催場所：小金井市商工会館 3 階 「萌え木ホール」

参加者；一般参加者 11 名、流域連絡会委員 8 名、行政委員等 5 名 計 24 名



グループに分かれて討議



発 表

【議事録要旨】

次 第

1. 開会、2. 参加者自己紹介、3. 挨拶および野川ルールの概要説明、4. グループ討議・発表、5. まとめ、6. 閉会

1. 開 会・・・進行についての説明

2. 参加者自己紹介

3. 挨拶および野川ルールの概要説明

(1) 野川流域連絡会について説明

- ・ メンバーは、公募の一般市民と市民団体の代表および流域自治体と東京都の職員、総員 56 名で構成されています。
- ・ 任期は 2 年で、平成 12 年 8 月に結成されて、現在第 3 期目に入っています。
- ・ 普段の活動は「水環境分科会」と「生きもの分科会」に分かれて行っています。

(2) 野川ルールを作ることになった経緯

- ・ 2 年程前（第 2 期の時）にコイやカルガモにエサやりをする人に「止めなさい」という人と「わたしも」といってエサをあげる人がいる。釣りも同様に「止めなさい」という人と「わたしも」といって釣りをする人がいる。草木についても「水が出たときに危険であるから切って欲しい」という人と「カワセミが止まる木であるから切らないで」という人がいて、考え方や価値観の違いによって意見が分かれることが判った。
- ・ 雨が降ると上流では「野川に水が戻って良かった」と思い、下流では「大変だ水が増

える」と心配するというように、上流と下流でも感じ方が違う。

- ・ 考え方や価値観の違う人たちの間で、トラブルが生じないようにするために、テーマごとにお互いがどう考えているかを知り合い、考えてもらうことが大切である。
- ・ 「生きもの分科会ではこのように考えて見ました」というものを皆さんに提供することが、トラブルを減らし、「野川を好きになる人を増す」ことになると考えた。それをまとめたものが「野川ルール」である。

(3)「野川ルール」の内容説明

以後、冊子に添っての説明のため、掲載事項以外の説明のみ記載

・「はじめに」について

名称は、確定したものではない。いろいろな意見を出していただくなかで、さらに良いものに変えてゆきたい。

今回は、冊子という形をとったが、今後「野川ルール」を広めるために、看板、文具の下敷き、もっと簡易な印刷等どのようなものにしたら良いか考えていただき改良したい。最終段の「みんなで考えましょう」ということが野川ルールの柱です。

・「生きものの採集について」

採集した生きものを飼う場合はその生きものの生き方や性質をよく知って飼う必要がある。飼いきれなくなったり、増えたりした場合はもとの場所に戻してあげる。

湧き水に棲むサワガニやホトケドジョウなどは繁殖力が弱く、狭い範囲に生息する為、大勢の人が少しずつ捕っても採り過ぎて居なくなってしまう。

・「ペットの放流について」

最近外来種・移入種が問題になっている。ミナミヌマエビ（九州・四国に生息：水槽の掃除とコイの色つけ）の出現により、在来のスジエビやヌカエビ（現在は国分寺の大池のみ生息）が居なくなってしまった。ペットは自然に放すとほとんどが死んでしまう。ペットにとって大変不幸である。

・「犬の散歩について」

一斉清掃の結果や呼びかけにより、一時期よりは犬のフンが減っている。いろいろな形で呼びかけることが大切である。

おしっこを薄めるためペットボトルに水を入れて持ち歩く人も増えてきた

・「川の草刈りについて」

小金井市内にある野川第一調節池において、花粉症の人からイネ科の草を刈って欲しいという要望があり、また一方「自然再生事業」という活動の中で残しておこうと言う相反する意見もある。また、カワセミは特定の木の枝に止まり、魚を狙う。その事情を知る人にとってはその木を切ってしまうと欲しくないと思う。一方、河川の洪水に関心のある人は川に中の木は危険であるから切るべきだと思える。そうした異なる考え方や価値観の違いを地域に詳しい人が調べ、こうしたら良いという案を持って行政に相談に行くことが大切ではないかと考えている。

小金井市内で30～40年前に姿を消した水辺に棲むハグロトンボが、8～9年ほど前に再び現れるようになった。ハグロトンボは水面から5cmほどの草の茎に産卵するが、20年前まで川の草をすべて刈ってしまったことで、卵が排除されてしまったと思われる。それが、十数年ほど前から水辺から1mを残して草刈りをするようになったことで、戻ってき

たと考えられる。

・「野川のゴミについて」

小金井では一斉清掃が行なわれている。ゴミは有料であることもあり、清掃は行政と話し合いながら実行する必要がある。流域連絡会でも一斉清掃を企画中である。

・説明の最後に

グループ討議では「野川ルール」を広めて行くため、またより良いものに改良してゆくために、いろいろな意見を出して頂きたい。

4. グループ討議、発表・・・3班に別れて討議した後、各グループから討議内容を発表

討議内容（グループ討議における主な意見）

ア. タイトルについて

- ・インパクトがあってよい。「～生きもの～」と入れたほうが良いのでは。
- ・タイトルとして「野川あのねあのね」「生きものへのエサやりあのねあのね」「ペットの放流あのねあのね」等 優しく語り掛けるような名前が良いのでは。
- ・「ルール」は一方的な印象を受け、決め事をしているというような誤解をまねく「野川のしおり」などはどうか。副題として、「野川のあるべき姿のために」と追記したらどうか。「野川ルール」だけでは内容がわからない。
- ・「ルール」だと誤解する人もいるので「提案」というくらいのニュアンスなのかも。
- ・ルールという言葉は人間中心の考え方では。

イ. 内容の変更について

- ・エサやりについて、生態系のバランスがくずれる恐れのあることをもう少しふれられないか。実際にエサをやる人を説得するにはすこし弱いように感じてしまう。
- ・生きもの採集について、サワガニ等が稀少生物であることを知らせることが大事では。
- ・ペットの放流について、ペットの放流＝死を強調して「ペットを放流しては死んでしまいますよ」と明確に記載したら。具体的な生きもの名を出して説明した方が良い
- ・犬の散歩について、犬のおしっこ対策としてペットボトルに水を入れて持ち歩くことも知らせては。毛は持ち帰ろうとあるが、ブラッシングをしてそのまま捨てて行く人のことを言っているのか判る表現が必要では。犬のブラッシングの絵に×印を付けたら。「やさしい犬に育てる」なんてむずかしそう。外でのマナーを守る必要はあるが、これは踏み込まなくてもいいのではないか。

ウ. 追加又は削除

- ・写真をとる人に対するマナーも考える必要があるのではないか。
- ・火事防止のためタバコのポイ捨てはやめよう、というのも必要では。
- ・草刈りや木の管理について、他の地域での取り組みや結果など情報のストックを見られるようにするとよいと思う。
- ・協力して対応していること（例：ゴミ拾い）を紹介するページも最後に欲しい。湧水を大切にするページも欲しい。

エ. 他のご意見、感想

「生きものへのエサやり」について

- ・私一人がという意識での「エサやり」をやっている。5～10年前から比べればエサや

りが減っているように思う。

- ・ 井の頭公園のような一時的に人が来るところでのエサやりSTOPは難しい。注意しにくいし、お年寄りが生きがいになっているように思える。
- ・ えさやりは善意、全部禁止というのは難しいのでは？エサをやる大人を説得するのは困難。過剰にエサやりするのは問題だが、そんな「人との共生」もできたらいい...

「生きものの採集」について

- ・ バケツ、ペットボトルで作った道具、つり糸など捨ててゆく人が居る。あぶないのでやめてほしい。
- ・ 子どもたちは生きものをとれるだけいっぱい採ってくる。しかし飼えるのはほんの一部、放置した後死ぬのがほとんど。
- ・ 子どもが中学生のとき、川辺のイネ科植物のおし花標本を作った。ものすごい数で、めずらしい名前のも、昔のひえ、あわ、きびの親戚などもあり勉強になった。
- ・ 子どもが水遊びできる場所では、魚やザリガニとりはある程度容認してもよいのでは。

「ペットの放流」について

- ・ どうしても駄目な場合は。飼ってくれる人を探す以外に方法がないか。

「川の草刈り」について

- ・ いろいろな視点での考えがあるので話し合いが必要。川の流水がみえなくなっている所がある。川幅が狭くなって来ている。
- ・ 草を刈った方が毎日土手を歩く子ども達にとっていいなと思って来ましたが、そこに生きる動物もいるんですね、考えなければ...

「野川のゴミ」について

- ・ 関心のある市とそれほどではない市とあるが、全体で助けあうことも必要では。
- ・ ゴミを放置すると、ますます増える傾向にある。(安心して捨てる。)
- ・ ゴミは捨てないのがいちばん!!それでも実際に捨てる人はいる。当事者の気持ちを強く持たないとなかなか意識的になれないかも。きっかけを広めるのが大切だ。
- ・ こどもたちが水に入りゴミがあるとがっかり。がっかりするだけでなく、自分が捨てたものでなくても持ち帰るマナーも必要だ。

「犬の散歩」について

- ・ まだまだフンを放置する人が多いビニール袋に入れて捨てる人には一番腹がたつ。
- ・ 犬は家族、フンはトイレトペーパーで取り、家のトイレに流すことなど、フンの取り方を話し合うチャンスを作る必要がある。
- ・ 川の中に犬をいれて走らせたり、洗ったりしている人がいる。その後で子どもが水遊びをしていることはどうか。

「広報の方法」について

- ・ 説明を聞かなければ、どうしてしてはいけないの？と思うこともありましたので、どうしていけないことなのか、その理由を説明する機会をもっと設けた方がよいと思う。
- ・ 野川に関する知識が行き届いていない。「今年はなぜコイを飼わないのか」や「水をもっと流さないのか」などとはなしているのを聞くことがある。
- ・ 広報や教育は子供のみならず大人にも必要。根気強くアピールし続けよう！
- ・ 野川周辺の店へ貼り紙をすとか。エサやりやゴミ捨て禁止の看板をポイントごとに

立てて欲しい。

- ・ このルールを広報する広報板、生態系の解説板を野川沿いに立ててはどうか。
- ・ 野川ルールの冊子から見開き 2 ページを拡大コピーして、市民掲示板等に順次貼り出しては。
- ・ ルールの徹底については、あまり川辺に看板を立てたりするのはよくない。テーマを決め、期間をくぎってアピールするのはどうか。
- ・ ルールブックをただ配っても普及しない。項目ごとのプリントにし、期間を分けて川辺のイベントの度にクイズ式に遊んでみたらどうか。
- ・ 保育所や学童、プレイパークを作る会などに配ったら....。

「その他の意見」

- ・ 人間に対するルールであるから、考え方や川のあり方、どんな川にして行くのかといったことをしっかりと示す必要がある。
- ・ 上、中、下流に違いがある。(上流部分は生物はいない)
- ・ 一斉清掃よりも地域ごとに地域にあったやり方で行なうのが良い。
- ・ 地域ごとに川の管理のあり方を考えては。(例：子供中心や生きもの中心といったように考える)(川のゾーンを決める)(川を区切って草を刈るところをきめたら)
- ・ 指導員を置いて、腕章をして問題点を絞り込んだチラシを渡して注意(お願い)をするのもよいのでは。(腕章をして注意できるといい)

6. まとめ

- ・ 熱心な議論と貴重なご意見を頂きありがとうございました。
- ・ エサやりについてはすぐに止めることは難しいということで、野川流域連絡会でも一致しています。今の子供たちが、「エサやりはいけないんだよね」という認識をもち、大人になった頃に、この中の幾つかの項目が実現されるようになればという長いスパンで考えています。
- ・ タバコのように、法律で禁止するといったルールではないと考えています。
- ・ 湧水の保全、生きもののPRをという意見を頂きました。
- ・ 流域 70 数万人の人々にこれから、PR活動を行う為に、渡すことの出来る冊子が出来た、これを見て、エサやりをやめる人が一人でも出てくるかもしれない。それが大きいと考えています。
- ・ 徹底のために腕章・看板・チラシいろいろとアイディアを出していただきましたが、そのうち、野川流域連絡会の腕章が用意できました。しかしこれは注意するための腕章ではなく、メンバーが川に入って作業をする為のものです。
- ・ その他地域ごとに区切ったの清掃、管理、ゾーニングについて、又、写真撮影のマナーの件、名称についてのいいアイディアも頂きました。これらを前回の世田谷における「野川ルールをかんがえよう」の際に頂いた意見とあわせ、生きもの分科会に持ち帰り、話し合いをさせていただきたいと思います。

7. 閉 会